

1年 国語科学習指導案

「じぶんが見つけた ふゆをつたえよう」

渋谷区立神宮前小学校

学級 1年2組(34名)

単元の目標(生活科・国語科)

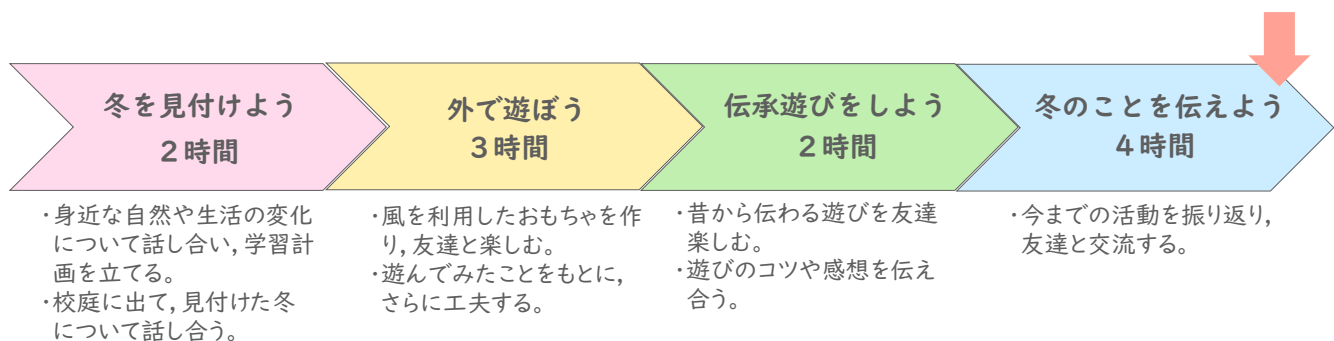
- ◎話し手の知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。
- 冬の自然と関わる活動を通して、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付く。
- 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。
- 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・冬の自然と関わる活動を通して、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付いている。 ・言葉には、事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。 ・話し手の知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き話の内容を捉えて感想をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・冬の自然と関わる活動を通して、身近な自然を取り入れたり、友達と冬の楽しさを伝え合ったりする活動を通して、自分の生活を楽しくしようとしている。

単元の指導計画(全11時間 生活科7時間,国語4時間)

本時



「自ら学びに向かう児童の育成」の実現を目指した学年の取り組み

「自ら学びに向かう児童の育成」というテーマのもと、低学年は、「様々な学習ツールを経験する中で、相手に伝えたり聞いたりすることを通して、様々な考え方があることに気付き、自分なりに整理することができる子」を目指す児童像と設定した。

低学年は学びの土台をつくる時期である。この時期に、様々な学習形態ややり方を体験し、興味をもったことについて友達と学び合い、最後まで学び続けていくことよさに気付くことが大切だと考える。自ら学びに向かう児童の育成は、このような学習経験を丁寧に積み重ねる延長線上にあると考える。

本単元は、生活科「ふゆをたのしもう」と国語科「ききたいな、ともだちのはなし」を合わせた単元である。

児童はこれまでの活動を通し、諸感覚を使って関わりながら季節を体感している。冬の自然と触れ合う体験や活動を繰り返し保障することで、対象や他者との関わりを深め、気付きの質を高めていくようにしたい。自分の作りたいうおもちゃ作りをしたり、活動をしたりすることで主体的に活動できるようにし、おもちゃ作りや遊びの中で気付きや楽しさを見付けていく。

前単元である「たのしいあきいっぱい」では、個人の振り返りが中心だったが、本単元では自分が伝えたい冬の楽しさを伝える活動を取り入れる。ペアで、ブースに来た友達に対して発表するのは初めての経験であり、挑戦でもある。

また、低学年では上学年が行う話し合いや対話を目指し、様々な学習方

法を知ることが重要である。全体に対する発表形式ではなく、小グループでの発表形式を取り、スモールステップで発表の経験を積んでいくとともに、話型をまとめた「おはなしカード」を持たせ、対話を付けることを目指す。

また、学校内にとどまらず、地域や家など生活の変化にも目を向け、多様な冬への気付きをもたせる。発表の資料は、児童が選択した内容によって写真や動画を見せるか実物を見せるかを選択できるようにしている。より冬の楽しさを伝えるためにはどちらが適しているのかを考えながら発表準備に取り組ませたい。

最後に活動を振り返り、冬のよさを改めて実感し、それらを活かして楽しく生活しようとする意欲を高める。



本時 (11/11)

ねらい：自分が伝えたい冬についての発表をし、質問したり感想を伝え合ったりする活動を通して、冬の生活を楽しもうとしている。

	学習内容・学習活動	留意点/教材・教具
導入	1. 前時の活動を振り返り、本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ふゆのたのしさをともだちとつたえあおう。</div>	○掲示されている学習計画表を見ることで、本時のめあてを意識できるようにする。
	2. 本時の学習の流れや方法を知る。 ①Aペアが発表の準備をし、Bペアはブースに移動する。 ②Aペアが映像や実物を見せながら発表を行う。 ③Bペアは、質問・感想を返す。 ④サインシールをもらう。 ⑤別のブースに移動し、発表を聞く。 ⑥AとBペアが交代し、Bペアが発表を行う。	○学習の流れや方法を掲示し、見通しがもてるようにする。 ○話し方・聞き方のポイントを確認する。
展開	<前半> 3. Aペアで自分たちの見つけた冬の楽しさについて発表を2分間で発表を行う。 聞き手は、更に聞いてみたいことを質問したり、感想を伝えたりする。 ・伝承遊び ・冬の食べ物 ・冬の遊び ・冬の景色 ・冬の自然 ・冬の言葉 ・冬の生き物 ・冬の生活 4. 1ペア目の発表を聞き終わったら、次のブースに移動し、発表を聞く。	○タブレットで撮影した映像を見せるか、実物を見せながら発表する。 ○5W1Hなどの質問事項話型を集めた「おはなしカード・しつもんポケット」を用意し、話に合った質問をするための一助とする。 ○発表する側と聞く側がはっきりするような場の設定をする。
	<後半> 5. 役割を交代して、Bペアが発表し、Aペアが聞く。 6. 個人の振り返りをオクリンクで送る。	○発表を聞いた後、発表ペアからサインシールをもらうようにする。 ○振り返りシートに記入したものを写真に撮り、オクリンクで提出する。
	7. 今までの学習を振り返る。	○冬ならではのよさを実感し、これからも冬の生活を楽しもうとする意欲を高める。

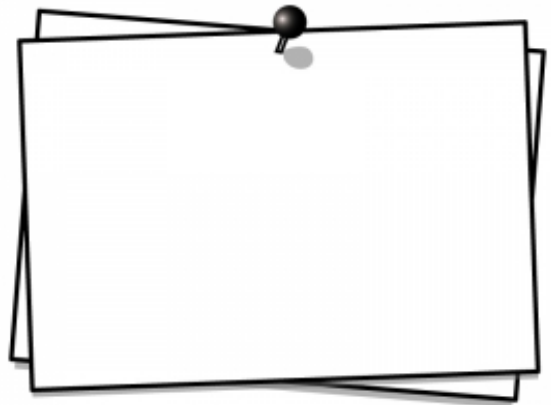
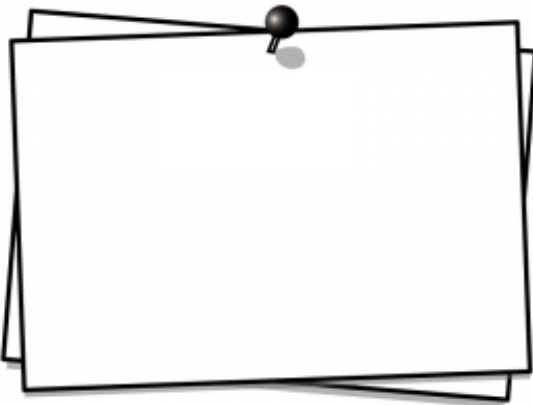
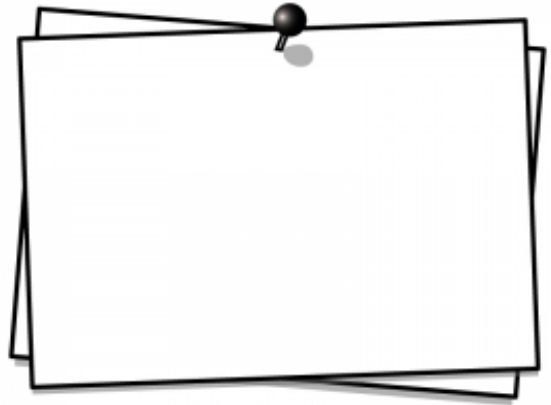
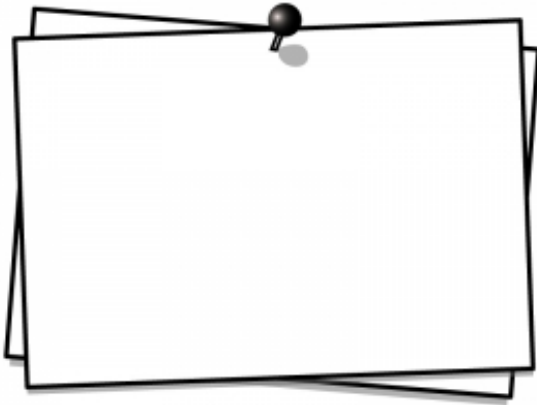
令和5年1月25日

フィードバックシート

学校名

記入者名

授業者へのメッセージ/フィードバック



自分の授業に活かしたいこと/この授業をもとにした展望

単元を貫く授業デザイン/学習環境デザイン

「学びに向かう力」学びの土台づくり

本単元では、児童が見付けたことや驚いたこと、もっとやってみてみたいことを取り上げて学習を展開していく。「教師と共に学習課題を設定するーゴールを目指して学習計画を立てるー学習の見直しをもつー学習に取り組む」のような主体的な学習への取り組みの道筋を経験できる場を設定する。1時間ごとに振り返りをし、めあてに対する評価をしながら、力が付いてきていることを実感させていく。自分の考えや思いを伝える場を設定することで、やりたいことや気付きを明確にすることができるようにする。

学びの土台づくり

季節の変化への気付きを広げる

通学路や遊び場、校庭で見付けたことを朝の会で話し、見付けた冬を「冬ニュース」として掲示することで、子供間に対話が生まれるようにする。思い思いの冬ニュースを掲示することで、自然物だけでなく、生活の変化の様子など多様な冬への気付きが生まれるようにする。冬の植物や生き物、日用品などを見たり手に取ったり触れたりすることができるようなコーナーも設け、冬の訪れを実感できるようにする。さらに生活科の学習では、冬の遊びや体験活動を取り入れた。冬の自然と関わる活動を通して、季節の変化に気付かせる。

環境構成の工夫

協働学習の基礎となる話す・聞く

自分の考えをもつことに加えて、友達の話や話を聞き、新しい考えに触れて、自分の考えを広げることが大切な協働学習である。友達との話し合いは、考えの共有の場である。しかし、自分の考えを友達に伝える活動は、個々の力量によっては大変難しい。だからこそ、低学年から話し合いの練習をし、基礎を身に付けなければならないと考えている。そこで、今回はペアでの発表形式とした。互いに支え合いながら、自分たちの考えを伝えられるようにする。また、「おはなしカード・しつもんポケット」を用意して、対話のための一助とした。

協働学習の基礎
話す・聞く

映像を手掛かりとして話し合う

単元の中盤では、それぞれが地域や家で見付けた冬を映像や画像を使って紹介し合う活動を取り入れた。季節の変化は学校内だけでなく、生活の様々な場面に表れることに気付き、話し合いを活性化させるよいきっかけとなった。

本時では、自分たちが伝えたい冬らしさを伝える補助として、画像や映像を取り入れている。紹介したい内容によって、実物を見せた方がよいものとそうでないものがある。教師が助言しながら、選択できるようにする。

また、振り返りをオクリンクで共有することで、様々な友達の考えに触れる機会とした。

学びを補助する
ICT活用

『かんそう』をいうとき↑

きく

- 「わたしもおなじようなことがありました。」↑
- 「〜がドキドキしました。」↑
- 「〜にびっくりしました。」↑
- 「〜がうらやましいなとおもいました。」↑
- 「〜をかんぼっているなとおもいました。」↑
- 「〜をわたしもやってみたいです。」↑

パワーアップ↑

☆アドバイスをしてみよう。↑

- ↑「こうするともっとよくなります。」↑
- ↑「これをつけたすと、もっとわかりやすくなります。」↑

『しつもん』するとき

きく

- ☆わからないところや、もっとくわしくおしえてほしいことをききました。
- ☆こたえてもらったら、「はい、わかりました。」

はなす

- ☆きかれたことがわからないときは、「かんがえます。」
- ☆「あとどこたえます。」
- ☆「しらべてきます。」
- ☆「〜をこたえましょう。」

きく

- 「いつのことですか。」
- 「どこでしましたか。」
- 「だれとしましたか。」
- 「なにをしましたか。」
- 「どうやってしましたか。」
- 「なぜですか。」
- 「きっかけはなんですか。」
- 「どのようにしましたか。」
- 「〜をもっとくわしくおしえてください。」

授業観察の視点

Q: 本時の中でのタブレット活用は適切であったか。

本時に向けて参考にした文献
 文部科学省2018「小学校学習指導要領解説 国語編」
 文部科学省2018「小学校学習指導要領解説 生活編」
 光村図書小学校国語学習指導書「こくご 一下 ともだち」
 光村図書小学校国語学習指導書「こくご 二上 たんぼぼ ことばのたからばこ」
 東京書籍小学校生活学習指導書「あたらしい せいかつ 上」
 東洋館出版社「イラストで見る全単元・全時間授業のすべて小学校1年 生活」